

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜聾学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年10月8日(火) 9:30~11:30
- 3 開催場所 岐阜聾学校会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した。
- 4 参加者

会 長	村瀬 忍	岐阜大学 教授
副 会 長	山村 基翔	岐阜県聴覚障害者協会 理事
委 員	岩田 順治	岐阜市社会福祉協議会 加納東支部 主事
	尾木 大	株式会社岐阜セラツク製造所 取締役社長
	棚原 美歌	加納東地区民生委員児童委員協議会 主任児童委員
	藤井佐由美	加納幼稚園 園長
	井戸才二郎	本校同窓会 理事
	吉村 久美	本校PTA会長

学 校 側	長瀬さゆり	校長
	立川 茂	教頭
	駒月 良美	事務部長
	岩田 浩子	幼稚部主事
	高田亜希子	小学部主事
	今枝みどり	中学部主事
	三橋 正康	高等部主事
	樋口さおり	教務主任

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 校長挨拶
- (2) 令和6年度学校経営の目標に対する前期の取組状況について
 - ・「魅力ある岐阜聾学校」となるための学校全体・各部における重点的な取組
 - ・活動の様子、各種検定・大会等参加状況
- (3) 授業参観
 - ・2つのグループに分かれて参観
- (4) 学校評価について
 - ・分析及び課題
- (5) 意見交換

意見1： 生徒が机の上に水筒を置いたまま授業をしていたが、危ないため下に置いた方がよい。幼児児童生徒が話すときに、声だけでやりとりをしておき手話を使用していない。

意見2： 保健の授業時にNHKの映像を使用していたが字幕が付いてない。字幕があることでより理解が深まるため、要望を出して付けてもらえるとよい。
中学部、高等部になるとより手話を使っていない。声も手話も大切であるため、伝えていくとよいのではないかと。
進路に関わる部分で当協会も協力していきたい。

意見3： 授業の中で児童生徒が発言する機会がもっとあるとよい。自発的に意見が言える生徒を育ててほしい。

意見4： 各教室にエアコンが設置されているが、使用状況に違いがあった。判断基準はあるか。現在は室内でも熱中症の可能性があるので、注意が必要である。
⇒原則27度以上になったら冷房を使用している。体調を優先とし、状況に応じている。窓を開けて換気することは徹底している。

意見5： 英語の授業を見学したが、アメリカ手話の学習はするのか。

⇒授業時には、英語教員がアルファベットや簡単な単語を国際手話で表現したり、英語担当者がアメリカ手話を知らせたりしている。英語の全てにアメリカ手話、サインを用いてはいない。

意見6：先生方がマンツーマンで話をしている様子に感心した。中学部の作業学習では、すぐに支援するのではなく見守る場面があった。見守り続けることは大変である。

意見7：中学部・高等部生徒アンケート評価において、20%～40%が「分からない」と回答している項目があるが学校はどうか把握しているか。もっとわかりやすい表現にできるとよい。

⇒保護者寄りの質問内容だったため判断できない生徒もいた。分からないものについては「わからない」としてよいことを事前に伝えてはいたが、今後はさらにアンケートの意図や内容について丁寧に説明していく。

意見8：タブレットを使いこなしている。体育の授業でも使っていることに驚いた。作業学習や実習での内容は積み重ねることで将来に活かすことができる素晴らしい活動である。以前よりもマスクを外している教員、幼児児童生徒が増えた。より関わりやすくなった。

委員のアンケート評価で、「いじめ」や「体罰」の項目について「あてはまらない」の回答がある。いじめ防止等対策委員会に参加している方であれば実情を把握しているため「あてはまる」回答になり、現状を把握していない方が「あてはまらない」「わからない」回答になっているのではないかと懸念している。

登下校中、事故に遭ってしまったときの対応についてどのように指導しているか。自分が連絡できなくても相手の人に連絡してもらおうなど、対処の仕方について指導しておくことよい。

⇒部ごとに交通安全教室や指導を実施し、対応についても伝えているが、万が一事故に遭い、「大丈夫？」と聞かれたとき、本校の幼児児童生徒は「大丈夫」と答えてしまうかもしれない。伝えるシュミレーションをしていないので、今後対策を検討していく。

意見9：幼稚部から高等部まで4つの部があるため、保護者も含め成長していく姿をイメージしやすい。未来が描ける、夢や目標に向かって積み上げられる学校である。

「アクティブラーニング」の視点で、子どもが主役となり、幼児児童生徒が授業を作っていくというスタンスがあるとよい。幼稚部は「遊び」が中心であり、幼児の「やりたい」「わくわくする」の2点に尽きる。

当校の幼児児童生徒がコミュニケーションを取るためには、授業中はもちろん休み時間までずっと相手を見続けなければならない。それができることが素晴らしい。しかし、ずっと集中しているのは大変である。ホッとできる時間があるとよい。

学校評価について、詳細な項目については把握していないこともあり、委員として無責任に評価できない。委員は、重点目標に関わる内容についてのみの評価としてはどうか。

意見10：聴覚障がいのある子どもたちが在籍している他の学校と、どのように連携しているか。

⇒他校より要望があった場合、当校支援センターを中心に職員を派遣し一緒に考えている。

意見11：幼児児童生徒が音声中心でコミュニケーションを図り、手話を使っていないことにギャップを感じた。手話は、聞こえない、聞こえにくい人たちにとっての大切なツールである。幼児児童生徒が手話の担い手になるために、もっと活用できるようにしてほしい。また、手話でなくても音声を文字に起こしてくれるものも普及している。文字を早く読み、早く理解する力も必要。早い段階から、文字からの情報収集力がつけられるとよい。

障がいのある児童生徒の人間形成・社会順応の指導にあたっている先生方は、専門性の向上に向け自己研習に努められていると思うが、校内外の研修への積極的な参加や、学校としての環境作りに期待したい。

6 会議のまとめ

- ・第2回学校運営協議会では、全委員より今年度前期の取組、学校評価について承認が得られた。
- ・委員からいただいた学校の活動に対する意見を校内で共有するとともに、それを基に教育活動の見直しを行いながら、今後の授業実践や魅力ある学校づくりにつなげていく。